

『女性とスポーツ』各紙掲載記事より

92年6月〜8月

●6/2 (朝日) 増田明美さん粉骨練習 一月の大阪国際マラソンを最後に引退した増田明美さん(28)が大会後の精密検査で七カ所の疲労骨折があることがわかった。激しい練習のために骨がもろくなり、骨の質は六十五歳並みとも診断された。スポーツ障害が問題になっているおり、専門家らは激しすぎる練習に警告を発している。

●6/7 (報知) 乙女戦士の素顔 本場・米国にもない女子アメリカンフットボール・チームの二度目の合同練習が、大阪興銀と第一生命の間で行われた。男子顔負けのハッスルプレーも飛び出し、秋には第二回「クイーンポール」が予定されている。

●6/17 (報知) 伊藤みどりプロに転向 アルペールビル五輪銀メダルを花道に現役を引退したフィギュアスケートの伊藤みどりさん(22)が、八月に行われるプリンスホテルでのアイスショーに特別ゲストとして出演、プロスケーターとしてデビューを飾る。

●6/17 (朝日) 自転車五輪代表決まる 橋本聖子(富士急)が、日本人では史上最多の五度目の五輪代表を決めた。「うれしいという以上に責任を

感じる。まず予選を通過し、少しでも多くレースが出来るよう頑張りたい」と抱負を語った。五輪後は二年後のリレハメル冬季五輪に向け、休養もそこにスケート練習を再開する意向。

●6/21 (産経) 「ル・マン」に夢を駆る日本人女性 世界最大の自動車耐久レース「ル・マン二十四時間耐久レース」に、吉川とみ子さん(38)が日本女性として初参加した。吉川さんはF3以上のフォーミュラカーを乗りこなせる日本で唯一の女性ドライバー。三十チーム中の二十三位で予選を終え、「出場できて夢のよう」と語った。

●6/26 (報知) 山崎浩子さん統一教会合同結婚式へ 宗教団体「世界基督教統一心霊教会」(統一教会)に入信、「合同結婚式」に参加を申し込んでいる新体操の元五輪選手の山崎浩子さん(32)が現在の心境を「とてもわくわくしている」と語った。見知らぬ相手と結婚することについては、「知らない同士だから互いに分かり合おうと努力する結婚を選んだ」と言う。

●6/28 (報知) 沢松ウィンブルドン日本女性史上初16強入り 女子シングルスで世界ランク35位の沢松奈生子

が4回戦に進出した。75年に沢松の叔母、和子さんがベスト32に進んでいるが、今回はそれを上回る快挙。

●7/2 (読売) 七大陸最高峰登頂 田部井さん女性初の快挙 田部井淳子さん(52)が、オセアニアの最高峰とされるインドネシア領ニューギニアのカルストン・ピラミッド山(四、八八四呎)の登頂に成功した。七大陸の最高峰登頂は世界では五人目、女性では世界初。日本では男女あわせても初めての快挙になった。

●7/15 (産経夕刊) 無寄港ヨット世界一周 今給黎さんゴール 単独無寄港世界一周に挑んでいた今給黎教子さん(27)のヨット「海連」が五万四千キロの航海を終え、鹿児島港入口の神瀬浮標を通過した。昨年十月の出港以来二百七十八日目。日本人女性としては初の快挙達成となった。

●7/28 (日経流通) 強い女に憧れて テコンドー、キックボクシングといった男性でも敬遠しがちな激しいスポーツに挑戦する女性が増えている。求めているのは肉体、精神両面の強さ。自分の夢を満たすためには「強さ」は欠かせないと考え始めている。

BARCELONA

●8/3 (産経夕刊) 快進撃の日本女性陣 元気印のニッポン女性選手陣が大健闘。バルセロナ五輪の女子柔道48キロ級で田村亮子さんが銀メダルを獲得し、日本の女性選手としてはマラソン、水泳とあわせてこれで七個目のメダル獲得となった。

口火を切ったのが水泳の十四歳、岩崎恭子さん。大会三日目の二百メートル平決勝で史上最年少の金メダルを獲得し、バタフライの春名美佳さんや司東理恵さん、自由形の千葉すずさんらの入賞ラッシュに弾みをつけた。柔道でも、男子の出遅れをよそに72キロ級の坂上洋子さんが銅メダルを取って先陣を切ると、72キロ級の田辺陽子さんが銀、56キロ級の立野千代里さんが銅、52キロ級の溝口紀子さんが銀に輝き、女子柔道の最終日の「ヤワラちゃん」で七階級中五個目のメダルとなった。

未明の日本列島に感動を呼んだマラソンの有森裕子さんは最後までデッドヒートを展開した末に堂々の銀メダル獲得。山下佐知子さんも四位入賞を果たし、本格的な女性スポーツ時代の到来を印象づけた。